

令和 4 年 4 月の解説（府県天気予報）

【4 月の天候状況】

上旬は、全国的に高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりましたが、1 日、3 日から 4 日は気圧の谷の影響で東日本太平洋側を中心に雨となりました。降水量は、東日本太平洋側を除いて少なく、高気圧に覆われた西日本と東日本日本海側でかなり少なくなりました。日照時間は全国的に多く、平年比は北日本日本海側 140%、北日本太平洋側 138%、東日本日本海側 158%、西日本日本海側 177%、西日本太平洋側 160%となり、それぞれ統計開始以来、4 月上旬として 1 位の多照となりました。1 日～4 日にかけては東日本、西日本と沖縄・奄美では寒気の影響で気温が平年を下回りましたが、北日本は暖かい空気に覆われました。6 日頃からは晴れて気温が上がりやすく、また南から暖かい空気が流れ込んだため、全国的に気温が高くなり、9 日と 10 日は東北地方以南で夏日となった地点が多くなりました。

中旬は、11 日～13 日にかけては、高気圧に覆われ、晴れて気温が上がり、また暖かい空気が流れ込んだため、全国的に気温が高くなり、東北地方や東海地方、近畿地方などでは真夏日となった地点もありました。14 日から 15 日頃は、前線や気圧の谷の影響で本州では雨となった所が多く、気圧の谷の通過後に寒気が流れ込んだため 16 日から 17 日は気温が平年を下回った所が多くなりました。19 日から 20 日は、高気圧に覆われて晴れた所が多くなりました。15 日頃は、台風第 1 号が小笠原諸島に接近して大荒れとなりました。沖縄・奄美では気圧の谷や湿った空気の影響を受けにくかったため降水量がかなり少なくなりました。

下旬は、低気圧や前線が本州南岸付近と日本の北をたびたび通過し、26 日には前線を伴った低気圧が日本海を東進したため、天気は短い周期で変わりました。本州付近は低気圧や前線の影響を受けやすく曇りや雨の日が多かったため、降水量は東日本、西日本でかなり多くなりました。特に東日本太平洋側の降水量は平年比 247%で、統計開始以来、4 月下旬として 1 位の多雨となりました。また、日照時間は西日本太平洋側でかなり少なく、東日本と西日本日本海側で少なくなりました。一方、低気圧の影響を受けにくかった北日本と沖縄・奄美では日照時間が多くなりました。25 日～27 日頃にかけて暖かい空気が流れ込んだため、全国的に平均気温がかなり高く、関東甲信地方や九州北部地方、沖縄地方では真夏日となった地点もありました。沖縄・奄美の平均気温は平年差+2.6℃で、統計開始以来、4 月下旬として 1 位の高温となりました。

【4 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 4 ポイント高い 90%で、明後日予報は例年値より 5 ポイント高い 87%でした。地方別の適中率では、明日予報は、沖縄地方で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、北海道、東北、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部の各地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4℃小さい 1.5℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.2℃で、すべての地方で例年値よりも小

さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6月の天気予報の利用にあたって】

梅雨の時期は、他の季節に比べて大雨が発生しやすく、山崩れやがけ崩れ等の土砂災害、河川の増水や氾濫、低い土地の浸水などの災害をもたらすことがあります。大雨が予想される場合には、最新の気象情報や早期注意情報、大雨・洪水の注意報、警報の発表状況にも留意してください。